

第1586回(10月19日)

化学肥料産業の市場構造と産業政策

茂 野 隆 一

1. はじめに
2. 製造工程、企業分類と流通経路
3. 市場構造の特質
4. 産業政策と化学肥料産業——構造政策——
5. 産業政策と化学肥料産業——価格政策——
6. おわりに

わが国の化学肥料産業は、戦災からの復興、輸出産業としての発展から衰退産業へというように、戦後約半世紀の間に産業としての栄枯盛衰を経験してきた。その中で、化学肥料産業は国の産業政策と極めて強いかかわりを持ってきた。戦後から現在にいたるまでに化学肥料産業に対して採られた施策を列挙すれば、産業政策のメニューをほとんど網羅しているといっても過言ではない。

これらの施策の背景には、そのときどきの化学肥料産業の市場構造とそれを取り巻く環境があり、また化学肥料産業の市場構造もそれまでの産業政策の影響を色濃く反映している。その意味で、戦後における化学肥料産業の展開は、産業政策と市場構造との相互関係の歴史とみることも可能である。

もちろん、戦後の化学肥料産業の展開は産業政策だけで説明できるわけではなく、製品開発等に代表される個々の企業行動が影響していることを否定するものではない。しかし、市場構造の大枠は産業政策によって規定されており、やや大胆な見方をすれば、化学肥料産業の市場構造が産業政策のパフォーマンスを体現しているといえるのではないだろうか。

以上のような観点に立って、本報告では化学肥料産業の市場構造の特徴を明らかにし、その形成に産業政策がどのように関わってきたかを分析した。

以下、簡単に本報告の概要を述べると、2.

では化学肥料の製造工程の概略、流通経路の概要を説明し、化学肥料製造会社の分類を行った。

3. では、化学肥料産業の川上（一次メーカー）から川下（二次メーカー）に行くにしたがって企業規模が小さく、かつ集中度が低くなり、製品分化の程度が高くなるという、化学肥料産業の市場構造の特質を指摘した。また、その背景には日本の化学肥料の需要構造、製造技術等があることを明らかにした。

4. および5. では化学肥料産業に対する産業政策を構造政策と価格政策に分け、それぞれについてその概要と市場構造に及ぼした影響を検討した。構造政策においては、産業としての離陸期に政府がセットアップ・コストを負担することによって、国際競争力の強化に一定の役割を果たしたものの、政府主導の需給、投資調整によって企業間協調の体質を醸成した。

一方、価格政策は、国際市場と国内市場を分離すると同時に、国内市場の非価格競争化をもたらし、これによって化成肥料の過度の製品分化等が誘発されたと考えることができる。